

石材で搬入、石器製作の可能性

宮ノ前遺跡から秋田産黒曜石

飛騨市宮川町の宮ノ前遺跡で発掘された旧石器時代の石器に、秋田県男鹿産の黒曜石が含まれていることが分かった。関係者によると、これまで飛騨地域で見つかった石器は長野県由来と推定されていたため、飛騨地域で見つかる旧石器がどこから波及したのか、見直す必要が出てきたという。同町の飛騨みやがわ考古民俗館で七日、研究成果を伝える特別展が始まった。十五日まで、入場無料。

宮ノ前遺跡は市内最大級の



15日まで 飛騨みやがわ考古民俗館で特別展

遺跡。旧石器から縄文時代の遺物が多く発掘されており、同時代における飛騨地域での文化の展開や、周辺地域との交流を考察する上で、重要とされている。

今回の発見は、新潟大人文学部の青木要祐助教が、同遺跡で発掘された複数の旧石器の成分比率を分析して、原産地が判明した。これらの石器は、石器を製作する時にできる剥片の状態だったため、男鹿から石材が持ち込まれ、宮ノ前遺跡で石器が作られた可能性があるという。青木助教は、今年六月の日本旧石器学会で研究成果を発表した。

飛騨みやがわ考古民俗館では、この発見を周知するため、夏の開館（七～九日、十四、十五日）に合わせて、研究で分析された石器四十四点を展示。

初日の七日は、飛騨市教委の石川茜学芸員による解説があり、約二十人が聞き入った。

展示は各日午前九時～午後五時。

（加藤佑紀乃）

研究の対象となった石器＝飛騨市宮川町の飛騨みやがわ考古民俗館で（同市提供）